

有効成分発芽スイートルーピン抽出たんぱく質を含有する申請農薬の使用方法及び 薬効・薬害試験結果概要

1. プロブラッド液剤（発芽スイートルーピン抽出たんぱく質 20.0 %液剤）

（1）使用方法

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	発芽スイートルーピン 抽出たんぱく質 を含む農薬の 総使用回数
野菜類	うどんこ病	400~600 倍	100~300 L/10 a	発病前 ～ 発病初期	—	散布	—
トマト ミニトマト	灰色かび病	300~500 倍					

（2）薬効

① 野菜類

薬効・薬害試験の結果、うどんこ病に対して無処理区と比べて効果が認められた。

野菜類のうどんこ病に対する効果については、きゅうり、トマト、メロン、すいか及びいちごの試験で評価した。

表1：プロブラッド液剤の薬効・薬害試験結果（きゅうり、トマト、メロン、すいか及びいちご、うどんこ病）概要

作物名	実施 場所 実施 年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫 名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	宮崎 H27	うどんこ 病	多	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 H28	うどんこ 病	中	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮城 H28	うどんこ 病	中	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	徳島 H28	うどんこ 病	多	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	大分 H28	うどんこ 病	甚	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
きゅうり	神奈川 H28	うどんこ病	甚	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	愛知 H29	うどんこ病	中~多	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	沖縄 H29	うどんこ病	中	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	新潟 H28	うどんこ病	中	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	石川 H30	うどんこ病	中	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	宮崎 H28	うどんこ病	中	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	茨城 H29	うどんこ病	中	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	奈良 H29	うどんこ病	中	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	奈良 H30	うどんこ病	中	400 0.05	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	神奈川 H28	うどんこ病	甚	600 0.03	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 H28	うどんこ病	中	600 0.03	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	広島 H29	うどんこ病	多	600 0.03	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	埼玉 H30	うどんこ病	多~甚	600 0.03	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	愛知 H30	うどんこ病	中	600 0.03	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	新潟 H28	うどんこ病	中	600 0.03	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	沖縄 H30	うどんこ病	多	600 0.03	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	宮崎 H29	うどんこ病	中	600 0.03	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	北海道 H30	うどんこ病	甚	600 0.03	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	栃木 H30	うどんこ病	少	600 0.03	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	福岡 H30	うどんこ病	少	600 0.03	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

② トマト、ミニトマト

薬効・薬害試験の結果、灰色かび病に対して無処理区と比べて効果が認められた。

ミニトマトの灰色かび病に対する効果については、トマトの試験で評価した。

表 2：プロブラッド液剤の薬効・薬害試験結果（トマト、灰色かび病）概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	石川 H28	灰色かび病	極少	300 0.07	生育期	散布	効果の確認はできなかった。	薬害は認められなかった。
トマト	三重 H28	灰色かび病	多	300 0.07	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	宮崎 H28	灰色かび病	少	300 0.07	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	高知 H29	灰色かび病	中	300 0.07	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	大阪 H29	灰色かび病	甚	300 0.07	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	宮崎 H29	灰色かび病	中	300 0.07	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 H29	灰色かび病	中	300 0.07	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	三重 H30	灰色かび病	少	300 0.07	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	茨城 H29	灰色かび病	中	500 0.04	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
トマト	三重 H30	灰色かび病	少	500 0.04	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数(倍) 使用濃度(kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
トマト	岐阜 H30	灰色かび病	中	500 0.04	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	大阪 H30	灰色かび病	少	500 0.04	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

(3) 薬害

① 対象作物への薬害

表1及び表2に示した薬効・薬害試験の結果、薬害は認められなかった。

これらの薬効・薬害試験とは別に、プロブラッド液剤を用いて実施した薬害試験の結果概要を表3に示す。

いちごで薬害が認められたが、処理濃度が本剤の使用濃度よりも高濃度であることから、申請された使用方法で使用する場合には問題ないと判断した。その他の作物については、薬害は認められなかった。

表3：プロブラッド液剤の薬害試験の結果（対象作物）概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件			結果
		希釈倍数(倍) 処理濃度(kg ai/hL)	処理時期	使用方法	
きゅうり	山口 H28	200 0.10	生育期	散布	薬害は認められなかった。
きゅうり	山口 H28	400 0.05	生育期	散布	薬害は認められなかった。
きゅうり	山口 H29	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
きゅうり	山口 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
きゅうり	東京 H30	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
きゅうり	東京 H30	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
トマト	山口 H29	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
トマト	山口 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
トマト	東京 H29	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
トマト	東京 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。

作物名	試験 場所 実施 年度	試験条件			結果
		希釈倍数(倍) 処理濃度(kg ai/hL)	処理時期	使用 方法	
トマト	東京 H30	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
トマト	東京 H30	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
メロン	東京 H29	200 0.10	生育期	散布	薬害は認められなかった。
メロン	東京 H29	400 0.05	生育期	散布	薬害は認められなかった。
メロン	石川 H29	200 0.10	生育期	散布	薬害は認められなかった。
メロン	石川 H29	400 0.05	生育期	散布	薬害は認められなかった。
メロン	東京 H30	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
メロン	東京 H30	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
すいか	東京 H29	200 0.10	生育期	散布	薬害は認められなかった。
すいか	東京 H29	400 0.05	生育期	散布	薬害は認められなかった。
すいか	茨城 H29	200 0.10	生育期	散布	薬害は認められなかった。
すいか	茨城 H29	400 0.05	生育期	散布	薬害は認められなかった。
いちご	長崎 H29	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
いちご	長崎 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
いちご	奈良 H29	150 0.13	生育期	散布	上位葉に萎縮症状が認められた。
いちご	奈良 H29	300 0.07	生育期	散布	実用上問題となる薬害は認められなかった。
なす	茨城 H29	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
なす	茨城 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 H29	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
いんげん	宮崎 H29	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
いんげん	宮崎 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。

作物名	試験場所 実施年度	試験条件			結果
		希釈倍数(倍) 処理濃度(kg ai/hL)	処理時期	使用方法	
いんげん	高知 H29	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
いんげん	高知 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
こまつな	東京 H29	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
こまつな	東京 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
こまつな	埼玉 H29	150 0.13	生育期	散布	薬害は認められなかった。
こまつな	埼玉 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
なす	東京 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
きゅうり	東京 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
はつかだい こん	東京 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	東京 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。
えんどうま め	東京 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。

② 対象作物以外の作物への薬害

とうもろこしを用いた薬害試験の結果概要を表4に示す

試験の結果、とうもろこしに対して薬害は認められなかった。

表4：プロブラッド液剤による薬害試験の結果（対象作物以外）概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件			結果
		希釈倍数(倍) 処理濃度(kg ai/hL)	処理時期	使用方法	
とうもろ こし	東京 H29	300 0.07	生育期	散布	薬害は認められなかった。